

3d-2 歩道におけるユニバーサルデザインの一例

発表者：北園芳人(熊本大学)

熊本市における歩行空間整備の事業予定地域で、現状でのバリアの実態を調査し、改善方法を提案した研究である。質疑では、横断歩道すりつけ部での歩車道境界の処理に対する筆者の提案について議論が集中した。既存のガイドラインやマニュアル類では対応できないケースの対策や、より優れた水準をめざすことも重要ではあるが、同時に、適用可能な物理的環境や利用者の特性・意識などの条件が異なってくることもあるため、提案する論文の執筆に当たってはこれらへの配慮が求められよう。